

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)稲沢センター	階数	地上2階
建設地	愛知県稲沢市平和町下三宅舟附591-10、菱池881-8	構造	S造
用途地域	市街化調整区域、用途地域指定なし、防火区域指定なし(法第22条区域)	平均居住人員	10人
気候区分	6地域	年間使用時間	3,432時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2024年3月 予定	評価の実施日	2023年2月13日
敷地面積	13,391 m ²	作成者	米田 聡
建築面積	7,746 m ²	確認日	2023年2月13日
延床面積	8,014 m ²	確認者	米田 聡

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	86%
③上記+②以外の	86%
④上記+	86%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Qのスコア = 3.2

Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 4.0

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.7

LR 環境負荷低減性

LRのスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.8

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>3.5</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>2.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>34.5 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>3.8</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体			
			評価点	評価点	重み係数	評価点		評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質								3.2		
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 室内騒音レベル			3.0	-	-	-	-	-		
1.2 遮音										
1 開口部遮音性能			-	-	-	-	-	-		
2 界壁遮音性能			-	-	-	-	-	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			-	-	-	-	-	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-	-	-	-	-	-		
1.3 吸音										
2 温熱環境										
2.1 室温制御										
1 室温			3.0	-	-	-	-	-		
2 外皮性能			3.0	-	-	-	-	-		
3 ゾーン別制御性			3.0	-	-	-	-	-		
2.2 湿度制御										
2.3 空調方式										
3 光・視環境										
3.1 昼光利用										
1 昼光率			3.0	-	-	3.0	-	-		
2 方位別開口			-	-	-	-	-	-		
3 昼光利用設備			3.0	-	-	-	-	-		
3.2 グレア対策										
1 昼光制御			5.0	-	-	-	-	-		
3.3 照度										
3.4 照明制御										
4 空気質環境										
4.1 発生源対策										
1 化学汚染物質			3.0	-	-	-	-	-		
4.2 換気										
1 換気量			3.0	-	-	-	-	-		
2 自然換気性能			3.0	-	-	-	-	-		
3 取り入れ外気への配慮			3.0	-	-	-	-	-		
4.3 運用管理										
1 CO ₂ の監視			3.0	-	-	-	-	-		
2 喫煙の制御			3.0	-	-	-	-	-		
Q2 サービス性能								4.0		
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ										
1 広さ・収納性			3.0	-	-	-	-	-		
2 高度情報通信設備対応			3.0	-	-	-	-	-		
3 バリアフリー計画	独自		3.0	-	-	-	-	-		
1.2 心理性・快適性										
1 広さ感・景観 (天井高)			3.0	-	-	-	-	-		
2 リフレッシュスペース			3.0	-	-	-	-	-		
3 内装計画			3.0	-	-	-	-	-		
1.3 維持管理										
1 維持管理に配慮した設計			3.0	-	-	-	-	-		
2 維持管理用機能の確保			-	-	-	-	-	-		
2 耐用性・信頼性								3.7		
2.1 耐震・免震・制震・制振										
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		保有水平耐力を1.5倍以上確保	3.0	5.0	0.80	-	-	-		
2 免震・制震・制振性能			3.0	3.0	0.20	-	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数										
1 躯体材料の耐用年数			0.3	3.1	0.33	-	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	②		-	3.0	0.23	-	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		床:ビニル床シート等、壁:クロス・ボード、天井:ボード等を採用	-	2.0	0.23	-	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			-	5.0	0.09	-	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		主要な用途上位3種の2種類以上にC以上を使用	-	3.0	0.08	-	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔			-	4.0	0.15	-	-	-		
2.4 信頼性										
1 空調・換気設備			0.1	2.8	0.19	-	-	-		
2 給排水・衛生設備			3.0	3.0	0.20	-	-	-		
3 電気設備			3.0	2.0	0.20	-	-	-		
4 機械・配管支持方法	②	非常用発電機設置、異なる発電所からの二重引込、浸水の危険性なし	3.0	4.0	0.20	-	-	-		
5 通信・情報設備			3.0	3.0	0.20	-	-	-		
			3.0	2.0	0.20	-	-	-		

3 対応性・更新性			0.4	4.3	0.48	-	-	-	4.3
3.1 空間のゆとり			0.3	5.0	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり		-	5.0	0.60	-	-	-	
2	空間の形状・自由さ		3.0	5.0	0.40	-	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	5.0	0.31	-	-	-	
3.3 設備の更新性			0.3	3.1	0.38	-	-	-	
1	空調配管の更新性	②	-	3.0	0.17	-	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	4.0	0.17	-	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	3.0	0.11	-	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	3.0	0.11	-	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	-	0.57	-	-	-	2.7
1 生物環境の保全と創出		独自③	-	2.0	0.30	-	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④	-	3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	3.0	0.30	-	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④	-	3.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			-	3.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー			-	-	0.40	-	-	-	3.8
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI _m =0.70	3.0	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEI=0.71	3.0	3.9	0.50	-	-	3.9
4 効率的運用				0.2	3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング			3.0	3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制			3.0	3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	
4.1	モニタリング			-	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制			-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	-	0.30	-	-	-	3.4
1 水資源保護			0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水			節水コマ、擬音装置設置	3.0	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.6	0.63	-	-	3.6
2.1 材料使用量の削減				-	2.0	0.07	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.24	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	風除室床タイル ピアッツアテラス床デッキ アースデッキソリッドグレイ	3.0	4.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	3.0	0.05	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	鉄骨+軽鉄+仕上材、OAフロアの採用	3.0	5.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.0	0.22	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	3.0	0.68	-	-	
1	消火剤			-	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)			-	3.0	0.50	-	-	
3	冷媒			3.0	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	-	0.30	-	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率86%	-	3.5	0.33	-	-	3.5
2 地域環境への配慮				0.3	3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止			燃焼機器を設置しない	-	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				-	2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	3.2	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自		-	3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制			-	3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	独自	適切な量の駐車スペース(管理用・荷捌用)確保、車両乗入口12mから16mへ拡張	-	4.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制			-	3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮				0.3	3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-	
1	騒音	独自		-	3.0	0.50	-	-	
2	振動	独自		-	3.0	0.50	-	-	
3	悪臭			-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制			-	3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制			-	3.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制			-	3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制				0.2	3.0	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			-	3.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30	-	-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

(仮称)稲沢センター

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.5
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.5	0.10	
② 資源の有効活用				3.8
Q2-2	耐震性・信頼性	3.7	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	4.3	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.6	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.17	外構緑化:34.5%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	<p>当施設は食品トレイなどの包装品を取り扱う物流倉庫になります。広い作業空間の中で環境を考慮した空調・換気・照明としています。</p> <p>構造は耐震性能を高め地震等による損傷被害を少なくし、いち早く通常業務が再開できる計画としています。また、従業員の快適性を考えリフレッシュスペースを兼ね自動販売機を設置した食堂、テラスを設けています。</p>
Q1 室内環境	<ul style="list-style-type: none"> ・外壁、屋根、ガラスは断熱性能の高い製品を使い外皮性能を使用。 ・建築材料は全てF☆☆☆☆を使用。 ・居室換気量を30m³/h確保。 ・敷地内禁煙の運用。
Q2 サービス性能	<ul style="list-style-type: none"> ・1人当たりの執務スペースを広く、天井を高く設定。広いリフレッシュスペースを設けて、機能性・快適性に配慮。 ・建物の耐震性を高めた。 ・非常用発電機設置、異なる発電所からの二重引込とし、信頼性を高めた。 ・階高のゆとり、物流センターとしての荷重のゆとりを取り、対応性・更新性に配慮。
Q3 室外環境(敷地内)	<ul style="list-style-type: none"> ・敷地北・東側に植栽帯を配置。
LR1 エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・外壁、屋根、ガラスの断熱性(省エネルギー性)により使用エネルギー量削減に配慮。 ・1次エネルギー消費量の検討により設備システムの効率化を配慮。
LR2 資源・マテリアル	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄骨造により分別解体が容易。 ・躯体材料以外のリサイクル材の利用、OAフロアーを利用して非再生性資源の使用料削減に配慮。
LR3 敷地外環境	<ul style="list-style-type: none"> ・燃焼機器を設けない(大気汚染防止)の配慮。 ・適切な駐車スペース(管理用・荷捌用)の確保、車両出入口の拡幅により、交通負荷抑制に配慮。
その他	